

平成26年度 東京都立白鷗高等学校・附属中学校経営報告

校長 若井 文隆

本年度重点目標は5期生の進学実績の確保と中高一貫教育の成果検証を踏まえた教育活動の展開にあたった。また、募集・広報活動に力を入れ、応募人数の確保に努めた。さらに、中高一貫教育校として10年を迎え、中高一貫教育校の教科指導の在り方として数学科において教科マネジメントを実施した。教職員一同心を一つにして教育活動に取り組んだが、進学実績は当初目標をクリアすることができなかった。継続して取り組む課題も多く残っており、そのような1年を振り返りつつ報告としたい。

※ Aは概ね達成できた。Bは概ね達成したが今後も継続が必要。Cは達成できなかったのだからに継続

| 項目 | 取組目標 | 達成時期 | 結果 | 達成度 | |
|--------|------|--|----------|---|---|
| ① 学校運営 | ア | 中高一貫教育校の検証結果の踏まえた教育活動の継承と、新たな取り組みの策定。 | 3月 | 中高一貫教育校としての教育活動には一定の成果が見られたが、新たな取り組みの策定までは至らなかった。 | C |
| | イ | 分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証の実施。 | 3月 | 各教科及び各分掌による年度末の検証を実施し、次年度の取り組みに生かしていく。 | B |
| | ウ | 各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制の構築。 | 3月 | 中高における各分掌及び教科で連携を図ることはできた。さらに指導体制の強化を図る。 | B |
| | エ | 広報活動、入学選抜等を中心にさらなる経営企画室との連携強化。 | 2月 | 広報活動は教員が中心となつての実施であった。入学者選抜は経営企画室の積極的な関与もあり強化が図れた。 | A |
| | オ | 年間3回の授業研究月間を設定し、全教諭が3回以上の授業見学を実施する。 | 3月 | 授業研究月間の設定はできなかったが、教員が意識的に他の教員の授業を見学し授業力の向上に努めた。 | B |
| | カ | SPP事業の実施及び理数教育チャレンジの取り組み | 8月 | 校内発表など、各種の発表会で研修成果を発表した。 | B |
| ② 学習指導 | ア | 生徒による授業評価および生徒実態調査を2回実施し、これらの結果分析を授業に反映させ、次年度の教科目標を策定する。 | 9月 1月 | 授業評価における自由意見欄などを工夫し授業改善に生かせるようにした。生徒実態調査は今後も継続的にを行い、学校運営に生かしていく。 | B |
| | イ | 教科別指導方法の教科内検討会の実施と進捗の分析を行い、教科指導に関するさらなる工夫・改善をおこなう。 | 2月 | 数学科において、外部コンサルティングを活用した、教科マネジメントに取り組んだ。 | B |
| | ウ | 生徒指導資料のデータベースを図る。 | 3月 | 成績推奨ファイルの活用は図れたが全教員が利用できる体制をつくること。 | C |
| | エ | 東大生等のチューターの活用と自習室の充実を図る。 | 3月 | 高校ではチューターの活用は定着してきたが、中学での活用が図れなかった。生徒の要望等に応じた活用を図ること。 | C |
| | オ | 適切な宿題や課題を課することにより自宅学習時間の確保を図る。 | 2月 | 1年2時間15分・2年1時間37分 3年1時間11分・4年1時間13分 5年1時間56分・6年3時間35分 | B |
| | カ | 英語、漢字などの各種検定に対する年間実施計画の策定。 | 3月 | 教科の協力のもと、各種検定は組織的に実施でき、成果もあがっている。英語においては、GTECを全学年で実施し、高いスコアが得られた。 | A |

| | | | | | |
|--------|---|---|-----|---|---|
| | キ | 学年検討会・センター検討会等4回以上の実施。 | 3月 | 検討会は卒業生も含め4回実施した。今後は、さらに具体的な対応策の策定に取り組む。 | B |
| ③ 進路指導 | ア | 5教科による勉強合宿の実施により、学力の伸長を図る。 | 8月 | 5教科での実施は定着したが、参加生徒の意識を更に高めること。 | B |
| | イ | 自己の学力把握のための実力テストと模擬試験の実施。 | 3月 | 1年から6年までを通した白鷗模擬試験計画は出来上がったので、模試を分析し、進学指導への活用をさらに図ること。 | B |
| | ウ | 長期休業中の補講・補習の参加者延べ2000人以上。 | 1月 | 6年50講座3970名・5年9講座1055名・4年15講座1612名・3年7講座611名・2年3講座324名・1年5講座1040名 総計8612名 | A |
| | エ | 国公立大学・難関私大への実質進学者数80名以上。 | 3月 | 国公立進学者名・難関私大(早慶上理)進学者名計58名 | C |
| | オ | 難関国立大学への合格者10名以上。 | 3月 | 4名(東大1・兄弟・東工大1・一橋大1) | C |
| ④ 生活指導 | ア | あいさつの励行と時間厳守、制服の着こなし等を基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。 | 3月 | 制服着用週間を設定するなど制服の着用指導にあたったが、指導を継続的に行う必要がある。 | B |
| | イ | 中高一貫校としての行事の検証と工夫・改善を図る。 | 10月 | 学校行事や学年行事を通して、生徒一人一人がリーダーとして活躍できるように指導の工夫を図った。地域連携は良好である。 | A |
| | ウ | 自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。 | 3月 | 生徒会を中心にアフガニスタンへの支援のための企画を計画・実施した。(海を渡るランドセル)文化祭では生徒会を中心とて、中高一貫校開校10周年の企画・展示 | B |
| | エ | 部活動の活性化を図り、関東大会出場以上3団体、中学では都大会出場3団体以上。 | 3月 | 8割以上の生徒が部活動に加入し、上位大会を目指している。囲碁将棋で関東大会に出場する。 | B |
| | オ | 年間皆勤者数、学年平均50名以上。 | 3月 | 1年71名・2年52名・3年68名・4年59名・5年89名・6年45名(3年間皆勤:18名)合計384名 | B |
| ⑤ 募集広報 | ア | 学習塾等への訪問30以上。 | 1月 | 校長のみで15箇所 | C |
| | イ | 中学校説明会参加者5000名以上。 | 1月 | 学校説明会7000名 学校公開来校者2436名 | A |
| | ウ | 中学校入試倍率7.0倍以上。 | 3月 | 6.47倍 | B |
| | エ | 高校説明会参加者500名以上。 | 1月 | 学校説明会324名・施設見学会480名・授業公開502名・外部説明会483名 合計1789名 | A |
| | オ | 高校入試倍率1.7倍以上。 | 3月 | 1.82倍 | A |
| | カ | ホームページ委員会の充実を図り、内容のさらなる充実と、週に一度の更新ペースを維持する。 | 3月 | HPのリニューアルを図り、総務部担当と学年や部顧問との連絡を密にし、ほぼ週1回程度の更新を行なった。更に内容の充実を図る。 | B |

| | | | | | |
|---------------------|---|-----------------------------------|-----|---|---|
| ⑥ 健康 推進 | ア | 生徒の状況把握を行う全体会の実施。 | 2月 | 専門医による全体研修会は実施できなかった。 | C |
| | イ | カウンセリングチームによる個別指導の徹底。 | 3月 | 管理職、カウンセラー、養護教諭によるケース会議を実施し、生徒の状況把握や生徒理解を図った。 | B |
| | ウ | 健康推進のための講演会実施。 | 3月 | 生徒を対象にした健康講話を実施し、健康推進に努めた。 | A |
| ⑦ 情報 活用 | ア | I C T機器を使った2回以上の授業研究の実施。 | 3月 | 多くの教員がI C T機器を使った授業を実施しているが、I C Tを活用した研究授業はできなかった。 | B |
| | イ | I C T機器を活用した教職員の情報共有の促進。 | 3月 | プロジェクターが教室設置になり、I C T機器の活用が容易になり、各教員が教材開発には積極的に取り組んだ。 | B |
| ⑧ 国際 理解 教育 | ア | 海外修学旅行及び海外短期留学の内容の充実。 | 2月 | シンガポールから台湾への行き先を変更したが、大きなトラブルもなく実施できた。交流校との交流が今後の課題である。短期留学は希望者が多く、さらに内容の充実を図る。 | B |
| | イ | 国際交流の活性化を図り、留学生等の受入の活性化。 | 3月 | 今年度は留学生の受入れはなかったが、次世代リーダー等で9名の生徒が留学中である。 | B |
| | ウ | 海外の学校との姉妹校提携と具体的な連携の実施。 | 12月 | オーストラリアの受け入れ校の一つと姉妹校の締結を行ったが、具体的な取り組みがまだ構築できていない。 | C |
| | エ | 日本の伝統と文化理解教育の積極的発信。 | 3月 | 和太鼓部及び長唄三味線部がインターハイ開会式に出演の他、地域のイベントや浅草観光連盟主催の行事にも積極的に参加した。 | A |
| ⑨ 地域 連携 | ア | 中学の地域交流15カ所以上。高校の地域交流10カ所以上。 | 3月 | 中学伝統文化体験7箇所、中学職場体験52事業所、高校連携18箇所 | B |
| | イ | 大学進学に向けた保護者向け講演会の実施。 | 3月 | 双鷗会（本校PTA）と協力し、予備校の講師を招き講演会を実施した。 | A |
| ⑩ 経営 企画 室 | ア | 適正な予算執行及び経営計画に基づいた予算計画の策定 | 3月 | 企画室職員と連携を図りながら適性に執行及び策定を行った。 | A |
| | イ | 行政系職員と教員系職員の連携を強化し、円滑な教育活動の推進を図る。 | 3月 | 連絡を密に取りながら、教育活動を展開したが、一層の連携強化が必要。 | B |

主な目標項目と数値目標

| 項目 | 目 標 | 対 象 | 25 年実績 | 26 年度実績 | 目標数 |
|----|---------|---------------------|-----------------------|-------------------------|-----------|
| ② | 自宅学習時間 | 中学生 | 1 時間 39 分 | 1 時間 41 分 | 2 時間以上 |
| | | 高校生 | 2 時間 14 分 | 2 時間 15 分 | 2. 5 時間以上 |
| ③ | 進路決定 | 国公立大学・私立難関校進 学者数 | 合格者 122 名 進学者 66 名 | 合格者名 101 名 進学者名 58 名 | 80 名以上 |
| | | 難関国公立大学合格者 | 9 名 | 4 名 | 10 名以上 |
| ③ | 夏季講習参加者 | 中学生 | 延べ 3127 名 | 延べ 1975 名 | 延べ 500 名 |
| | | 高校生 | 延べ 7030 名 | 延べ 6193 名 | 延べ 2000 名 |
| ④ | 皆勤者数 | 中学、高校学年平均 | 平均 60 名(1~5 年) | 平均 64 名(1~6 年) | 50 名以上 |
| ⑤ | 説明会参加者 | 中学校 | 7617 名 | 9436 名 | 4000 名以上 |
| | | 高校 | 984 名 | 1789 名 | 500 名 |
| ⑤ | 一般入選倍率 | 中学校 | 7.68 倍 | 6.47 倍 | 7.0 倍 |
| | | 高校 | 1.18 倍 | 1.82 倍 | 1.7 倍 |
| ⑨ | 地域交流 | 中学校 | 54 ヶ所 | 59 ヶ所 | 15 ヶ所以上 |
| | | 高校 | 13 ヶ所 | 18 ヶ所以上 | 10 ヶ所以上 |